

リン子の絵日記

クワ

お母さんのストールきれいだ。

お父さんからもらった絹のストールよ。

絹はどうやってできるか知ってるかい？

絹はカイクという虫のまゆからつくられるんだ。そのカイクはクワの葉を食べている。

似合うね

クワを栽培して、カイクを飼育し、まゆを生産することを「養蚕」という。

大きさは約3mm

1齢 (生まれたて)

約25日後

約85mm

5齢

約22日

クワ (マクワ)

弥生時代からじまった絹の生産は全国に広がり、一九〇〇年代には、日本は生糸の世界一の輸出国に。ピーク時の一九三〇年代では全農家の四十%が養蚕を行っていたんだ。

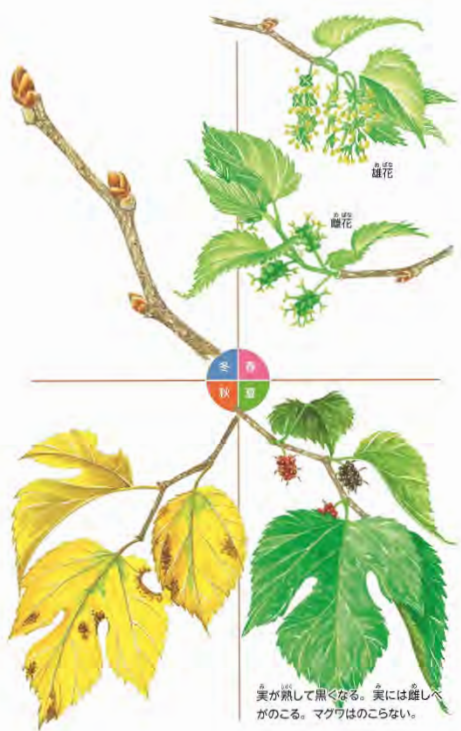
全国にクワ畑が広がり、地図記号もできたよ。

クワの葉だけ食べて、きれいな絹をつくるなんてカイクはすごいね。

クワの実にはカリウムやビタミンCが多いから美はだ効果も期待できるよ。

でもわたしは、葉より実のほうがあまくて好きだ。

私も食べよう。



実が熟して黒くなる。実には酸っぱいの。マクワはのこらない。



わー
すてきな
かざりだね！

友だちから
菊炭を
もらったから
インテリアに
してみたの。

菊炭？

この菊炭はクヌギを材料にした木炭よ。
切り口がキクの花みたいに美しいでしょ。

クヌギ

火持ちがよく、けむりや
はじけることの少ない菊炭は、
茶の湯の席の最高級品なの。

木炭には小さなあなが無数
にあいていて、水分や
においをすってくれるから、
かざりながらお部屋を
いい空気にしてくれるのよ。



水道水の中のカルキもすって
くれるから生きものに
やさしい水も
つくって
くれるわ。



本当だ！
あなただけ！！



クヌギの木炭は
火力を調整
しやすいから、
バーベキュー
にも最適だよ。



切り株からすぐ新しい芽が
成長して七、三十年サイクルで
材がとれるから、とっても
エコな燃料でもあるんだ。



冬
秋
夏
春



お！今年も
カキが
豊作だ！

カキノキは本来
一年おきに豊作
になるけど、
冬の間に剪定
することで
毎年たくさん
実をつけるんだよ。

カキの実はこのままじゃ
しぶくて食べられ
ないんだよね。

わかいカキの実には、
水にとてもしぶさのものになる
タンニンがふくまれているからね。
タンニンが口の中とけなく
することが、しぶぬきだよ。

水にとけ
なくなった
タンニン

水にとけた
タンニン

スズメ

きんた

ラッキ

本当は木の上で
熟させてもあまく
なるんだけどね。

そうすると
鳥たちに先
こされちゃう
からねー！

ドライアイスの場合



ドライアイス
はじめて空気をしっかり
ぬいてふくろをしぼる。
20℃の室内で4日くらい。

黒いはん点が
水にとけなく
なったタンニン。
これが出てれば
しぶぬき完了。

あまくなったか
切り口で確認。

アルコールの場合

きりふきで
35度の
焼酎を
ふきかける。

へたに35度の
焼酎を
しみこませる。

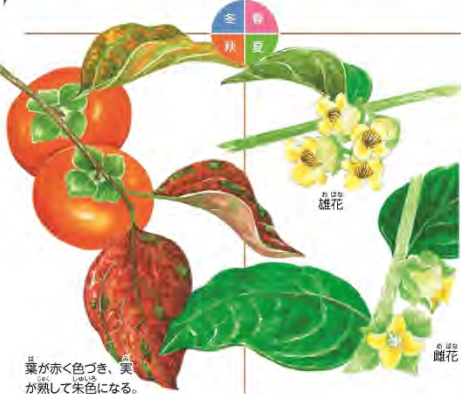


布とつしよにビニ
ールふくろへ入れ、
20℃くらいの室内で
4～14日。

温度とかで
日数はかわるから
チェックしながらね。

カキの味のしぶぬき

しぶぬきにはアルコール
やドライアイスを使
うのが一般的さ。

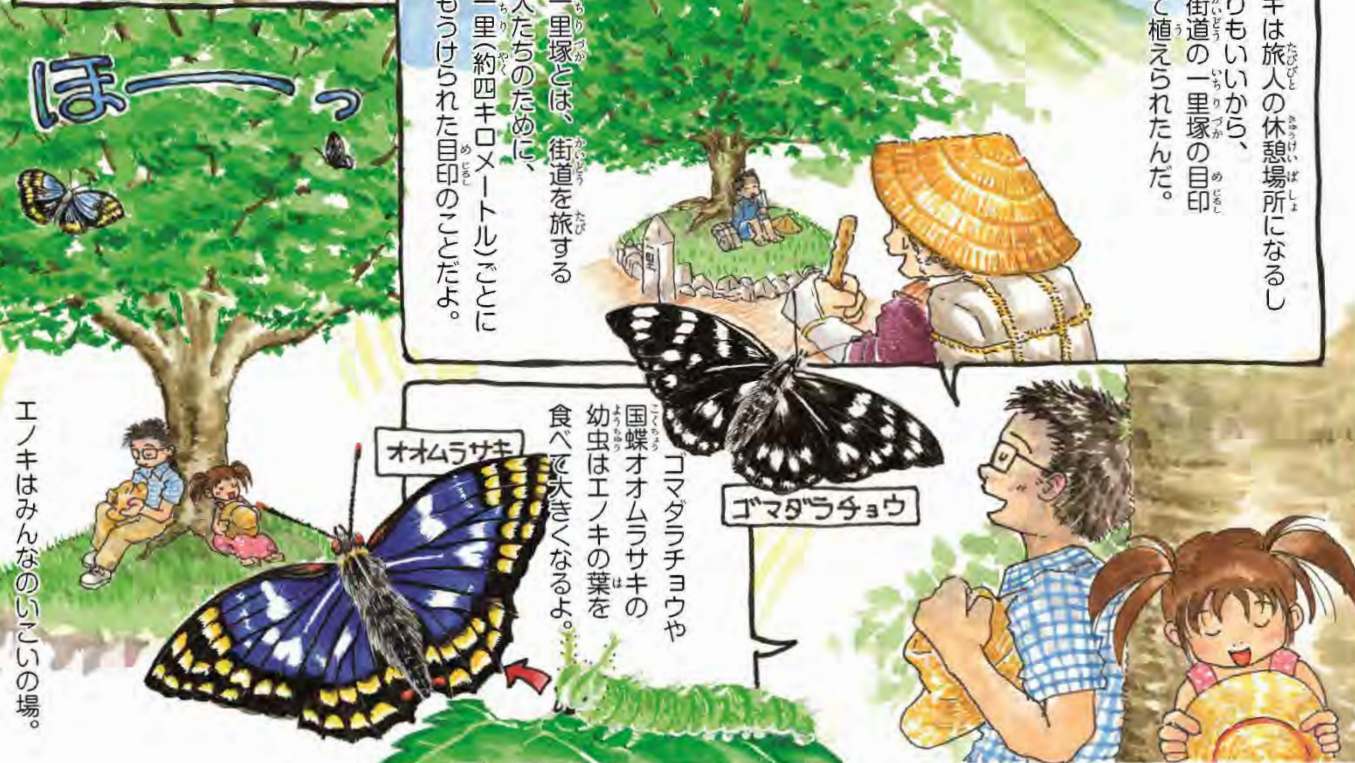


葉が赤く色づき、実
が熟して朱色になる。

冬 秋 夏

雄花

雌花



リン子の 絵日記 ソテツ

夏休み、奄美大島に
来ています。

巨大な
パイナップル
みたいな木!!

あの木は
ソテツ。

ソテツ類は恐竜の
時代からあって
「生きた化石」とも
いわれているよ。

地面を少しほって
みてーらん。
根がふしぎな形を
しているだろう。

これは根粒といって、
中には細菌の
なかまの藍藻が
すんでいるんだ。



この藍藻は空気中の窒素をソテツに
養分としてあげている。
お礼にソテツは光合成でできた養分を藍藻に
あげている。これを共生という。

この共生のおかげで
ソテツはほかの植物が
育たないやせた土地でも
生きられるんだ。

ぼうふうりん
防風林として海岸に
植えられたりして
いるんだよ。

協力して生きる
って強くな
るんだね!



リン子の 絵日記 ブナ

今日はハイキングに
来ています。

わか葉が
きれー。

ブナの森
だよ。

ブナは日本の北
半分を代表する
木のひとつなんだ。

落ち葉で
おおわれた
森の土は、
雨水をたっぷり
吸収して
くれる。

足元がスポンジ
みたいにフカフカ
しているね！

吸収された雨水は、
地下水となり、
ゆっくと河川に
流される。だから
森は「緑のダム」
ともいえるんだよ。

ブナはほかの木の下でも、少ない光を利用してゆっくと成長できる。
だから大きなブナがたくさんあることは、そこがずっと昔から
「緑のダム」の働きをしてきた証なんだ。

また、ブナの実はいくつもの野生動物のえさとなり、うるはすみか
となる。ブナ林はたくさんの生きものを育てているんだ。

ブナは変色しやすく
乾燥するときの変形が
大きいから昔は使い道
があまりなかった。

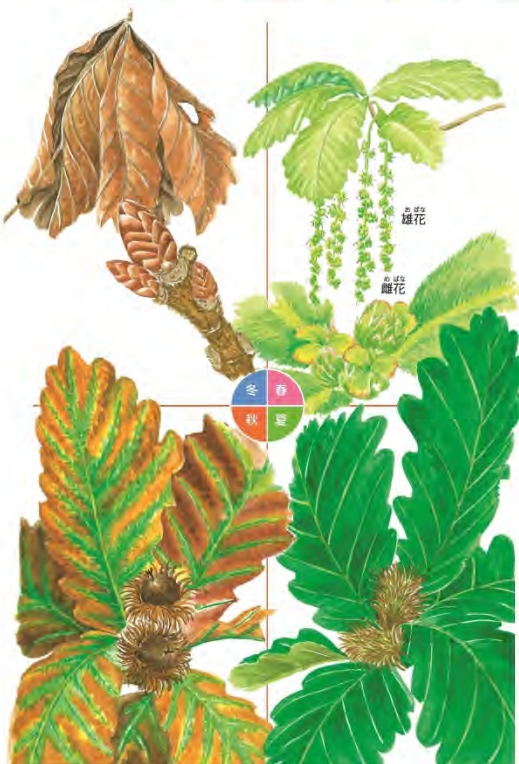
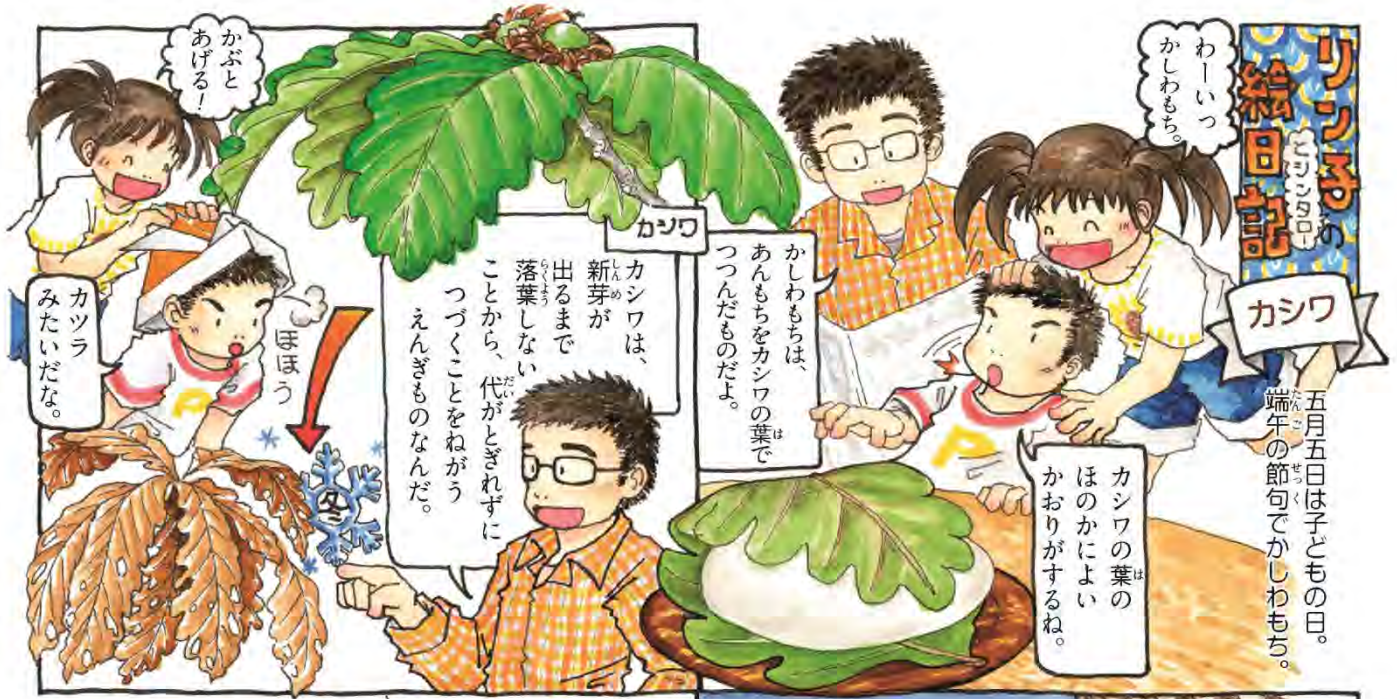
だけど戦後昭和二十年
以降は乾燥技術の進歩
で、ほどよいかさ
とねばりのあるブナ材は
家具などに
使われる
ようになったよ。

ブナ林の
めぐみを
大切に
使ってい
きたいね。



カシワ

五月五日は子どもの日。
端午の節句でかしわもち。



リリ子のお絵日記 ウルシ

うわ ああ きれいなお椀

これは 職人が 作った 漆の お椀だよ

漆？

漆はウルシの木の 樹液を集めて作る 塗料だよ。

1万2,600年前の ウルシ木片(世界最古)

5,500年前の ホシエット

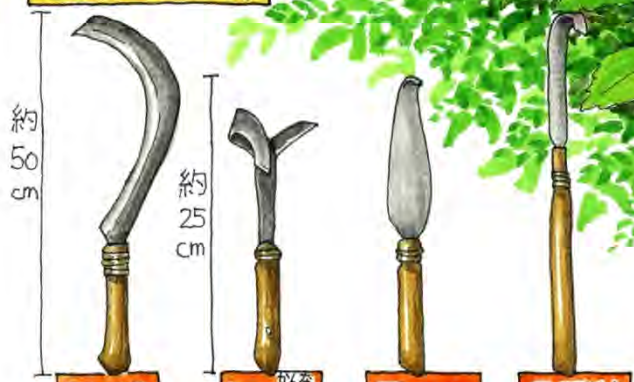
漆を塗ったから 原形がしかり 残っていたんだ

日本人と漆の付き合いは古く、縄文時代から漆を育て、利用してきたんだ。



矢じりと木の 接着剤にも利用

漆掻きの道具



漆鎌 約50cm 厚い樹皮を削り 傷をつけやすくする。
漆鉤 約25cm 傷をつける。
掻ベラ しみ出た 液を集める
エヅリ

漆はウルシの木を 傷つけて分泌される 樹液を集めて作るよ

漆掻き

タカッポ(かきたる) ホウノキやシナノキの樹皮で 作る。漆を集めるタリ

ウルシ (ウリ科ウリ属)

ウルや日陰に弱いウルシは、人間が下草などを刈って、育てる必要がある。 種子を集めて発芽させ、 苗木も作っている。

苗畑で育てた 苗木を山に 植えかえて 約15年かけて 一升ビン位の太さまで成長させます。

漆掻きには専用の 道具が使われる。



特に形が複雑で 毎年交換が必要な漆鉤を作れる。 鍛冶職人は青森の田子町にしかないんだ。



昔は実を ロウソクに したり、 袋につめて 廊下を 磨いたり してたよ。



漆掻きは6と11月に行われる。
一人の職人が一年間に掻くウルシは300と400本。
これを4グループに分けて、
一日1グループずつ作業を進める。

これを
「一人山」と
いいます。

漆掻き職人(掻き子)

高齢化が進むが、
国産漆の復興に
とまない若い女性も!

① 下準備

下草を刈って風通しと
日当たりを良くする。

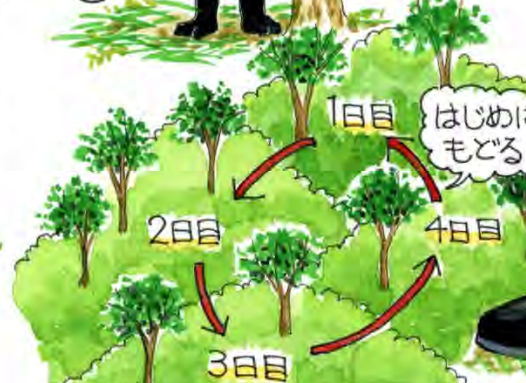
これから
傷つける木に
激励の
念を送る
たのんぼ

② 目立て(辺付け) (6月中旬)

傷をつけていく箇所
に
いるしをつける



これで採取できる
漆の量が決まる
重要な仕事。



③ 辺掻き (6月下旬~9月下旬)

目立てでつけた
傷の上に、前より
少し長い傷を
4日サイクルで
つけていく。

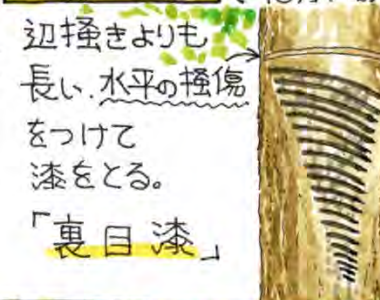
前回つけた傷を
治すため集まった
樹液(漆)が
しみ出してくる
のを集める。
「辺漆」



こうして、
漆を出した木は、冬の前に伐採される。
ものすごく
貴重なんだね

④ 裏目掻き (9月下旬~10月下旬)

辺掻きよりも
長い、水平の掻傷
をつけて
漆をとる。
「裏目漆」



⑤ 止掻き (10月下旬~11月中旬)

幹を一周する
傷をつけて
とどめをさす
「止漆」



漆の出方は、季節や天気、木毎に変化する。
それを見極めて無駄なく採るのは職人技だ。



5ヶ月かけて
一本の木から
とれる漆は、
たった200gなんだ



漆の精製

大切に集められた漆は、使用目的に合わせて加工されるよ。

生漆

採集されたばかりの漆(荒味漆)からゴミを除いたもの

生漆のままで下地用として使えるけど、攪拌して全体をなめらかにするんだ。「ナヤシ」という作業だよ。

さらに熱を加えて水分をとばす。「クロメ」を行う。

色がかわって光沢が出てきたよ。



ガラス板に付けて肉持ちや透明感などを確認する。

精製透漆

黒漆は「クロメ」の途中で鉄粉を入れて作るんだ

透漆に顔料を入れ、練り込んで様々な色漆ができる



色漆



縄文時代の土器



耐熱・耐温・抗菌作用も強く、室内ではパワフルな保護材なんだ。



さらに漆は一度乾くと酸やアルカリにとても強い。

金やガラスを溶かす王水やフッ化水素もへっちゃら!



表面張力が大きいから、天然塗料の中では最も平滑に広げられるんだよ。

こうして精製された漆は、光の屈折率が高いので、深みのある光沢をもつ。

漆の文化

日本人は、こうした漆の特性を生かして豊かな文化を育んできた。

国宝
中尊寺金色堂



国宝 鹿苑寺(金閣)

全体に漆が
塗られて
いるんだ

見た目の美しさはもちろん、
木の弱点をカバーできる漆は、
神社や仏閣といった建物も
守り、いろどってきたよ。



国宝
阿修羅像

国宝
八橋時絵硯箱

上塗り直後は、鏡のように模様を写す。

国宝 日光東照宮の修復

1636年に造営されて以来、
数十年に一度の漆塗を繰り返すことで
土台の木を守ってきた。



彩色部分の下地にも漆が

何重もの塗層を見ると
先人達の技と思いが
伝わります。



何よりすごいのは、漆は剥がして
修理・復元ができるということだ。

江戸～昭和の修理で重ねられた
漆膜の上に、新たに漆を重ねていく。



こんな
裏側まで!!

神様と自分と
次の世代の職人が
見ているからね。

次の修復まで
保たせます。

傷みがはげしい部分は、
漆を剥がして
塗膜を進める。



欠けた部分も 漆で接着!

漆を身近に

安価な外国産の漆によって衰退してきた国産漆。しかし、平成30年から、国宝や文化財の修復には、原則100%、国産漆を使用することが決定した。



もともとウルミを植えないと。

掘き子の数も増やさなきゃ



弟子入ります！



漆産業は、守るべき伝統産業ではなく、攻めるべき産業に大転換しつつある。

数十年先の修復に向けて、若手の塗師を育てなければ！

木地師が加工した木の器→(トチノキやケヤキ等)に…



塗師が漆を塗って研いでを何度も繰り返す。

漆だけで厚みを作っていく。数ヶ月作業。

漆器は木や紙に漆を塗り重ねて作る。



そして漆は、国宝だけのものじゃない。



まきえし絵師により、装飾されるものも…



自分の器を育てよう！

つや子と命名！

漆器は使い続けると、キムが整えられ、色ツヤが増してくるよ。



手触り、口当たりがふっくらやさしく、熱々の湯を入れても、手に伝わるのはやわらかなぬくもり。漆器は五感で感じる器。

みこ



発行 林野庁 林野図書資料館

〒100-8952 東京都千代田区霞が関1の2の1

電話 03-3502-8111（代表）

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/tosyo/index.html>